

かわたやすお

奇特の人、河田保勇の業績

河田保勇^{やすお}については、明治時代に町内で活躍した地域の有力者の一人として知られていましたが、令和三年一〇月、東京在住のご子孫から保勇に関する史料を寄贈していただき、これらの中からこれまで知られていなかった保勇のさらなる業績が明らかになりました。

河田保勇は、安政元年（一八五四）に古川村の豪農の家に生まれ、明治十一年（一八七八）に家督を相続すると、西々條郡学務委員（明治十三年）、同郡書記（同十六年）、岡山県

会議員（同二十一年）、芳野村農会長（同三十二年）、三十八年には芳野村長を務めるなど官吏・政治家として地域の要職を歴任しました。県会議員時代の明治二十五年（一八九二）には、県内に甚大な被害を及ぼ



河田保勇

した水害（第一水害）の復興にあたり、県会を代表して国庫からの補助を求め、請願書を真島郡（現真庭市）の井出毛三との連名で衆議院議長へ提出するなど、積極的に活動していたことがわかります。その他にも出雲大社教会世話掛、立憲政友会岡山県支部創立委員及び評議員、神苑会（伊勢神宮の整備を行う法人）苦田郡委員をはじめ、種々の役職を務めていました。

また、さまざまな機会に寄付を行っており、主なものを挙げれば、明治天皇岡山県巡行準備費、明治十七年の台風被害の義援金、岡山医学校修繕費、道路改修費、郡役所新築費、岡山津山間電信架設費、第三高

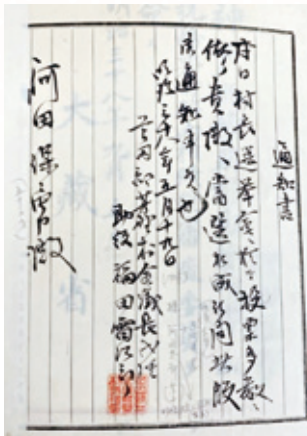


河田家（古川）文書

等中学校医学部（現在の岡山大学医学部）建築費、第一水害の義援金、貧民救助、日露戦争の従軍者家族扶助、津山警察署備品の自転車購入費、大日本武徳会岡山支部演武場建築費、津山区裁判所大野出張所庁舎建築費、珍しいものとしては平安京遷都千百年記念祭や豊太閤（豊臣秀吉）の墳墓修理と没後三百年祭挙行事業など多岐に及び、地元の小学校や寺社などへはたびたび寄付を行っています。これらの寄付については、その都度「奇特ノ義ニ付」とその行為の礼を述べた感謝状を受けています。

大正四年（一九一五）三月には、還暦祝賀記念として山林十三町歩を芳野村の小学校の基本財産に寄付し、翌月の還暦祝賀会において芳野村から感謝状と銀瓶を受けています。翌大正五年に亡くなりました。「河田保勇翁還暦祝賀記念帖」の中で、保勇は次のように評されています。

翁壮ニシテ郡吏タリ煩勞ヲ厭ワズ



芳野村長選挙の当選通知

精励ヨク其ノ職務ヲ致ス後、衆望ヲ擔フテ名譽ノ職ニ就クヤ寛厚ニシテ能ク下ヲ御シ仁ヲ行ヒ徳ヲ施セリ。此他翁ハ過去数十年ノ久シキ終始一貫教育ニ勸業ニ凡ソ公共事業ニ関シテ聡明ナル識見ト稠密ナル思慮ト巧妙ナル術策トヲ以テ一々其ノ肯綮ニ中リ、経営大ニ觀ルベキモノアリ：

これは保勇に限らず、明治時代の地域のリーダー達全てがこのような素養を持っていました。江戸幕府が滅び、幕府や藩の支配者がいなくなった農村では、豪農層がリーダーとなり、地域の産業、経済、教育の発展のために私財を投じてまで最新の知識の収集や技術の導入など、人々の生活が豊かになるために尽力しました。かつてこのコーナーで紹介した中島衛（香々美）や河田繁穂（吉原）、伊丹健治郎（羽出）らもこうした地域のリーダー達です。

寄贈を受けた河田保勇の史料の中には、民権運動に関する史料もありましたが、膨大な量に及ぶため今回は割愛しました。また整理と調査研究が進めば、是非紹介したいと思えます。

参考：河田家（古川）文書
協力：河田純

鏡野町教育委員会 生涯学習課 日下
電話（0868）54-7733